

### ○ユースリサーチプロジェクト in 屋久島永田浜

- ・日時 2017年6月2日（金）～4日（日）
- ・会場 鹿児島県熊毛郡屋久島町／屋久島永田浜／屋久島うみがめ館



鹿児島県屋久島の北西部にある「永田浜」は貴重なウミガメの産卵地として2005年にラムサール条約に登録されました。「永田浜」は永田集落にある「前浜」、「いなか浜」、「四ツ瀬浜」を総称して呼ばれます。今回のユースリサーチプロジェクトでは2017年6月2日～4日の日程で屋久島へ行きました。産卵のために上陸するウミガメが日本で一番多い永田浜で見たウミガメの産卵は感動的でした。ほかにもヤクスギランドや西部林道を回り、ヤクスギ、ヤクシマザル、ヤクシカなどの屋久島の自然を体感しました。永田浜では6月3日の世界環境デーに合わせて行われた清掃活動に参加して、他の参加者にインタビューを行ない、ウミガメを守る人たちの「今」を知りました。



永田浜で産卵するアカウミガメ

### 【参加者レポート】

○屋久島やウミガメを写真などでは見たことがありましたが、屋久島の景色だったり、ウミガメの産卵だったり実際に見ることができ、写真や言葉では伝えきれない感動や空気を感じることができました。そして表現することは難しいと思ったからこそ、実際に体験した私たちが正確に確実に伝えることの大事さを感じました。

日本最大のウミガメの産卵地なのに、ウミガメ調査や卵の移植をするスタッフ不足ということにとっても驚きました。この今のウミガメ館の現状をもっと多くの人に知ってもらい、活動に参加してもらいたいと思いました。

また、インタビューの中での多かった意見が、「知ってもらうことから始める」というもので屋久島の方々は、他の人に知ってもらいたいと思えるほど、地元にとっても誇りを持っているんだと感じました。子どもたちも大人の方も真剣にウミガメの保護について考えていました。しかし今回のようなイベントがないと、なかなか自分から動くことが難しいと思います。誰も、自分の生活は大事ですが、ウミガメの保護について知るだけでなく、そのあとどう行動に移していくのかといったことも大切なんだと知りました。



清掃活動参加者の皆さんと記念撮影

# ○ユースラムサール CEPA ワークショップ in 豊岡

- ・日時 2017年7月15日(土)～17日(月)
- ・会場 兵庫県豊岡市／コウノトリの郷公園／田結湿地／ハチゴロウの戸島湿地／伊府湿地／植村直巳冒険館



兵庫県豊岡市は日本で野生のコウノトリが最後まで生息していた場所であるとともに、日本で初めてコウノトリの野生復帰が行われた場所です。コウノトリの野生復帰では、豊岡市、兵庫県、NGO など様々な団体の連携によって、コウノトリが生息できる湿地や水田の整備をはじめ様々な活動が市内各地で行われてきました。

これらの取り組みによりコウノトリが生息・繁殖できるようになっただけでなく、コウノトリが利用する水田で採れたお米を「コウノトリを育むお米」としてブランド化して販売するなど、地域の農業にとっても様々な効果が生まれました。今回は、「コウノトリ」と「保全に関わる人々」をテーマに、「コウノトリの郷公園」、「豊岡市北部の「田結湿地」、「ハチゴロウの戸島湿地」をまわり、コウノトリがもたらした地域の魅力を学び、さらに「伊府湿地」で実際に湿地保全のための整備活動を手伝いました。

さらに今回は、これらの湿地を視察した成果をもとに、豊岡市の観光ルートを考えてパワーポイントにまとめ、最終日には豊岡市役所の皆さんの前でプレゼンをしました。



コウノトリの郷公園でお話を伺う



コウノトリ



伊府湿地の整備を手伝う

**詳しいご案内**

Ramsar × コウノトリの郷公園

湿地の復活  
このとりのプロジェクト

豊岡市の概要  
人口8250人  
豊岡市は山間部を貫通する山脈を境として、北は丹波、南は丹波、東は丹波、西は丹波の4方面に接する。

お問い合わせ  
20代から30代前半の社会人を募集します  
参加費：30,000円

**はじめに**

**人々の暮らし×ジオパーク**

ラムサール×ジオパーク

ラムサール条約とジオパーク

おすすめ観光コース

田結湿地公園、コウノトリの郷公園、玄武洞、城崎温泉

① 要ガールズと湿地トレッキング！

② コウノトリキーホルダー作り！

③ 地元の小中学生と湿地のお手伝い！

④ バーベキュー！

⑤ 涼める温泉！

⑥ ナイトトレッキング！

参加のユースが考えた豊岡の観光プラン

## ○ユースラムサール CEPA ワークショップ in 鶴居村

- ・日時 2017年8月3日(木)～6日(日)
- ・会場 北海道阿寒郡鶴居村／鶴居村総合センター／温根沼ビジターセンター／釧路湿原



第6回となるユースラムサール CEPA ワークショップを釧路湿原がある北海道阿寒郡鶴居村で開催しました。日本のラムサール条約登録湿地第1号であり、日本最大の湿原である釧路湿原の自然環境や、タンチョウを始めとする様々な生きものを通じて、北海道の雄大な自然を肌で感じる貴重な機会でもありましたが、同時に湿地をテーマとした環境教育の研修の機会でもありました。

湿地の保全活動では、まず湿地のことを知ること、そしてそれを次の世代に伝えていくことが重要です。この鶴居村での CEPA ワークショップでは、鶴居村と NPO 法人日本国際湿地保全連合、ラムサールセンターなどが主催する「KODOMO ラムサール in 鶴居村」にスタッフとして参加し、湿地の環境教育プログラムがどのように運営されているかを学びました。また、11月4日、5日に熊本県の荒尾干潟でユースラムサールジャパンが主催となって開催した「KODOMO 湿地交流 in 荒尾干潟」に向けての準備の機会でもありました。

### 【参加者レポート】

○今回、私はこの KODOMO ラムサールのスタッフとして参加して、3班の補助として4日間活動したけど、次に自分たちが小学生向けのイベントを開催する時は、班の補助ではなく、班のスタッフのリーダーとして頑張りたいです。

今まではスタッフの時でも、みんなに頼ってばかりだったので、これからは自分が誰かに頼るんじゃなくて、だれかに頼ってもらえるようにがんばりたいし、子どもたちを班のリーダーとして会議をしやすいような雰囲気にしたたり、大人のスタッフのみなさんから聞いた「この会議に参加してよかったな」って思えるようにしたり、子どもたちが満足するようなイベントにしたいです。

○私にとって、今回初めてこういった大きいイベントのスタッフをやり、その予想以上の大変さを思い知った。スケジュール的によく活動する中、睡眠時間が少なく、それでも子どもたちの前で決して疲れた姿や様子を見せない。また、当たり前であるが常に子どもたちを最優先させる。とても、大変ではあるが同時に準備が大変であるほど、とてもやりがいがあるのではないかと最後のスタッフの集まりで感じた。(中略)この4日間の学びを1つ残らず自分のものにしていきたいと感じた。また次回の荒尾では今回の自分の良かった点はさらに伸ばしていき、そして改善すべき点は意識して良くしていきたい。



KODOMO ラムサール 開催前日の下見



タンチョウ



ユースメンバーによる打ち合わせ

## ○ミニ交流会 in 環境デーなごや&ユース・ミーティング



- ・日時 2017年9月16日(土)～17日(日)
- ・会場 久屋大通公園(名古屋市中区栄) / 愛知県武道館 / 藤前活動センター

一昨年、昨年と出展した「環境デーなごや」に、今年もユースラムサールジャパンとして単独でブースを出しました。当日は雨で天候が悪く、来場者は少なめでしたが、ユースラムサールジャパンの活動を伝えるパネル展示を行うと共に、ワークショップとして写真立てを使った「貝殻アート作り」を実施。親子づれを中心に約40の方がワークショップを体験していきました。また、劇団シンデレラの進行のもと、野外ステージにおいて活動発表と湿地のクイズを実施。一般来場者約50名の前で発表を行いました。



活動発表

また、夜にはFMいちのみやの番組「ただいまエンジョイカ」のワンコーナー「ユースラムサールジャパン」の収録に参加。さらに今後の活動に向けたミーティングも実施しました。



ワークショップの様子



ユース・ミーティング

## ○ユースラムサール CEPA ワークショップ in 荒尾干潟



守る、つなげる、共に生きる。——  
公益財団法人 再春館「一本の木」財団

- ・日時 2017年11月3日(金)～5日(日)
- ・会場 荒尾市働く女性の家(熊本県荒尾市) / 荒尾干潟 / ふれあいの里南筑後(福岡県八女市)



荒尾干潟は熊本県北部、福岡県境の荒尾市の前浜に広がる有明海干潟の一部です。ラムサール条約の登録湿地で、アジア・オーストラリア地域・フライウェイ・パートナーシップに参加しており、広さは約1600ヘクタール。単一の干潟としては日本最大級で、多くのシギ・チドリなどの渡り鳥が飛来します。砂質の干潟ではノリやアサリ、アナジャコなど魚介類も豊富で漁業も盛んです。目の前に雲仙普賢岳を望める美しい景観の干潟です。今回のユースラムサール CEPA ワークショップでは、小学生向けの湿地の環境教育イベント「KODOMO 湿地交流 in 荒尾干潟」をユースラムサールジャパンが主催となり実施しました。参加のユースがスタッフとしてイベントの運営や小学生を案内・サポートし、環境教育の重要性を感じ運営手法を学びました。



ユースによる干潟の下見

初日の3日は、明日からの「KODOMO 湿地交流 in 荒尾干潟」に向け、ユースによるオリエンテーションと干潟の下見、事前準備会を行いました。2日目は、今回のテーマである「KODOMO 湿地交流 in 荒尾干潟」の開催初日。午前中はユースによる打ち合わせ。12:30 から開会式。劇団シンデレラのミュージカル。参加湿

地の子どもたちによる活動発表。荒尾干潟の観察。宿に移動してからは KODOMO 会議。終了後には一日を振り返ってのユースの会議を実施。一日みっちりのプログラムでした。3 日目は「KODOMO 会議」の最後のまとめ。昨日、荒尾干潟で学んだことを「荒尾干潟新聞」として作成。個性的な新聞が出来上がりました。最後に、主催団体として、ふり返し会議を行って終了しました。

【参加者レポート】

○今回、班付きリーダーの一員になって、今までより周りを気にすることが多くなりました。スタッフの人がどうやって指示を出しているのか、裏方はどんな感じなのかを知ることができました。班付きリーダーは何をするべきなのか、どうしたらスムーズに進むのかそんな事をずっと考えながら KODOMO ラムサールを運営していて、とても凄くと思いました。これから、もっとちゃんとしたリーダーになって、みんなに憧れる、見本になれるように頑張りたいです。

○今回のような、ユースと呼ばれる学生が主体となり、小学生を引き連れ学習するといった機会はこれまでのところ一度たりとも経験したことのなかった出来事で、私自身上手く立ち回ることができるのかとても心配であった。しかし、実際蓋を開けてみれば、子供たちは私についてきてくれ、共に学び、笑い、話し合い、その先の目的を達成するといった結果まで到達することができた。

○私は今回、ユースラムサール CEPA ワークショップ in 荒尾干潟に参加してしままでのユースの CEPA ワークショップでは得ることのできない体験をたくさんすることができた。まず、今回のワークショップは「ユース主体」での活動内容であったため、様々な準備や話し合いの段階で多くの学びがあった。いままでは「ユース主体」というわけではなかったためにどこか受け身になっていたところもあったが、いざ自分たちが主体となってプログラムを作成するとなると、多くの方々の協力や支援が必要となり、改めてプログラム一つを作りあげる苦勞に気づくことができた。



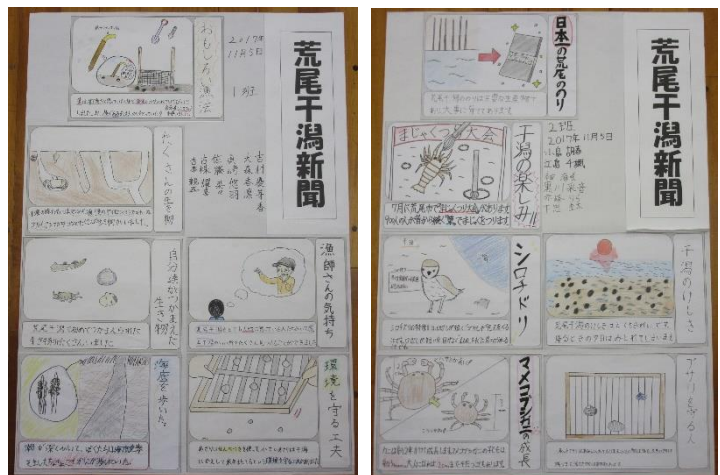
劇団シンデレラの公演



参加の子どもたちとゲーム



荒尾市の浅田市長とマジジャッキーと記念撮影



子どもたちがまとめた壁新聞

## ○アジア湿地シンポジウム ユースセッション

- ・日時 2017年11月7日(火)～10日(金)
- ・会場 ホテルグランテはがくれ(佐賀県佐賀市)



2017年11月7～11日、佐賀県佐賀市で「第8回アジア湿地シンポジウム2017」が、環境省などの主催で開催されました。第1回のアジア湿地シンポジウムが滋賀県の大津市と北海道の釧路市で開催されて以降、インドやカンボジアなどアジア各国で開催されてきましたが、25年目の節目の年に再び日本での開催になりました。26か国450人が参加。うち海外からは150人が参加し、活発な議論がおこなわれ、アジアの湿地の保全と賢明な利用をうながす「佐賀ステートメント」を採択し、幕を閉じました。

有明海の賢明な利用・再生への取り組みを話し合った「有明海セッション」や「湿地と防災・減災／気候変動」、「湿地と若者」、「湿地と持続可能な観光」などの9つの分科会、3回に分かれて実施されたポスターセッションなど200以上の研究・活動発表があり、活発な議論が展開されました。

このアジア湿地シンポジウムのなかで、ユースラムサールジャパンは11月8日に開催された「湿地と若者」セッションの企画と運営を担当。中国、タイ、ミャンマー、インド、ロシア、フィリピン、日本の7か国から20名のユースが参加し、研究・活動発表と討論を行いました。発表、討論は、ともにすべて英語で行われました。「湿地と若者」セッションは、アジア湿地シンポジウムに参加していた大人の人たちからの注目度も高く、また、湿地で活動しているアジアのユースたちとのつながりを作るきっかけともなりました。

この「湿地と若者」セッションの開催にあたっては多くの方のご協力がありました。討論の進行をすべて英語で仕切った代表の佐藤琢磨、企画の準備・運営全体を担当した佐藤湧馬ら、スタッフは準備段階からとてもたいへんでしたが、その分、得るものも多い機会となりました。来年、UAEのドバイで開催される「ラムサール条約締約国会議 COP13」に向けても、ユース世代の存在感を示すことのできる、とても大きな機会になったのではないかと思います。



口頭での活動・研究発表



円卓でのディスカッション



参加者・スタッフで記念撮影

## ○ユースリサーチプロジェクト in 中池見湿地

- ・日時 2017年11月23日(木・祝)
- ・会場 中池見人と自然のふれあいの里(福井県敦賀市)



福井県敦賀市の北東部にある中池見湿地は、およそ 25 ヘクタールの湿地です。かつては液化天然ガス基地の建設予定地でしたが、市民による長年の保全活動により 2002 年に計画は中止。2012 年にはラムサール条約に登録され現在に至っています。周囲を山に囲まれた盆地状の湿地で、もともと谷だったところが堆積物によって埋まった「袋状埋積谷」(ふくろじょうまいせきこく)という特異な地形になっています。その堆積している泥炭層は厚さが 40 メートルにも及び、約 10 万年にもおよぶ気候変動を記録していると言われます。



中池見湿地と中池見人と自然のふれあいの里

中池見湿地は、大昔はスギの巨木が生い茂る湿地であったとされます。その後、江戸時代には新田開発によりほぼ全域が水田に。昭和に入ってから減反政策により水田が放棄されたものの湿地環境として残り、昔ながらの水路や水たまり、草地、復元された水田、畦道など、狭い範囲に多様な環境がパッチワーク状に残る特異な湿地になりました。そのため生息している生きものの種類も多く、60 種以上の絶滅危惧種を含む、約 3000 種が生息していると言われます。今回の YRP では、NPO 法人中池見ねつの上野山雅子さんに、中池見湿地を案内していただき、取材しました。



上野山さんの案内で中池見湿地を見学

### 【参加者レポート】

- 中池見湿地が、全部、池になってしまったら、生きものたちが中池見湿地にいられなくなってしまうし、また、湿地のことでわからないことが、たくさんあるので、勉強したいと思いました。
- 笹鼻江の池がもともと田んぼで湿地だったところが沈んで池になったのに驚いた。いまの笹鼻江の池に生きている生きものがあるのは池があるからだと思いました。

## ○ユースリサーチプロジェクト in 秋吉台

- ・日時 2018年2月17日(土)、18日(日)
- ・会場 山口県美祢市/秋芳洞/美祢市立秋吉台科学博物館/  
秋吉台エコ・ミュージアム



日本最大規模のカルスト台地として有名な秋吉台。2005 年に地下水系としては日本で唯一のラムサール条約に登録されました。地下水系にはユビナガコウモリやキクガシラコウモリなど 6 種の洞窟性コウモリが生息し、アキヨシシロアヤトビムシ、アキヨシホラズミカニムシ、アキヨシチビゴミムシなど、「秋吉」の名前がついたこの地方の洞窟固有の生き物も生息しています。秋吉台は今から約 3 億 5000 万年前のサンゴ礁が、大陸移動の過程で陸地に隆起し、雨水で少しずつ削られ秋芳洞を



秋芳洞の様子

はじめとする多くの鍾乳洞が形成されました。また秋吉台は採草地として利用されていて、春先に山焼きを行うことで古くから草原が維持されています。今回のユースリサーチプロジェクトでは、地下水系の視察と山焼きの見学に秋吉台へ訪れました。

### 【参加者レポート】

○今回、私は山口県にある秋吉台で行われたユースリサーチプロジェクトに参加しました。秋芳洞は自然に出来たとは思えないほどの巨大な空間が広がっており、かなり迫力がありました。そして秋芳洞内にある百枚皿や傘づくし、黄金柱などいわゆる名所とよばれる場所はスケールの大きさに興奮しました。

秋吉台は 3 億年の年月をかけて現在の姿があることや、秋芳洞という暗く地理的に隔離された環境での独特な生態系などには、神秘的な魅力を感じました。今回参加した中で特に印象的だったのが宿で出てきた夕食です。これでもかと言わんばかりのごぼう料理で驚きました。カルスト地形が育んだ豊かな土壌によっておいしいごぼうができるんだということを舌で実感しました。



山焼き前の秋吉台

## ○ユースリサーチプロジェクト in 東海丘陵湧水湿地群

- ・日時 2018年3月25日(日)
- ・会場 愛知県豊田市／豊田市自然観察の森／矢並湿地／上高湿地



愛知県豊田市にある「矢並湿地」「上高湿地」「恩真寺湿地」は、いずれも小さな湿地です。しかし、「東海丘陵要素植物」(世界中でも東海地方にのみ自生、もしくは東海地方を分布の中心とする植物群)であるシデコブシ、シラタマホシクサなどが生育しており、世界的に貴重な植物が自生する湿地として2012年に「東海丘陵湧水湿地群」としてラムサール条約に登録されました。今回は、登録されている3つの湿地のうちの2箇所(矢並湿地、上高湿地)を観察し、合わせて現地を案内する人や同日に開催されている上高湿地の観察会参加者にインタビューし、東海丘陵湧水湿地群の魅力や保全のあり方を取材しました。



矢並湿地の観察

### 【参加者レポート】

○今まで見たタイプの湿地が干潟など「水と土」というものだったので、湧水湿地はすごく新鮮だった。水がいまにもなくなりそうなのだが、きちんと森から流れてきて、雨が降ったあと、しばらくはそこに水があるというのが興味深かった。上高湿地観察会参加者への取材では、ある人に「知らない植物を知りたいと思って来た」という答えを頂いたときに、すごく感銘を受けた。

○久しぶりに湿地の観察をして、前に来たときよりも歩きやすく



取材の様子



工夫されていたり、きれいなシデコブシも見ることができて、豊田のレンジャーの人たちが、ずっとこの湿地を守っていてすごいなと思いました。

○矢並湿地と上高湿地は、同じ東海丘陵湧水湿地群であるが、それぞれ違った環境で、違った植物が生えていたり、違う生物が生息していたことがとても印象に残っている。特に上高湿地では、場所が違うだけでシデコブシが開花していたりしなかったりしていたことが不思議に思った。

○今回の東海丘陵湧水湿地群でのフィールドワークを通して、湿地の個性というのをすごく感じました。矢並湿地や上高湿地

は近い位置にありながらも、生えている植物だったり、見られる動物が必ず同じというわけではありませんでした。さらに上高湿地の中だけでも場所によってちょっとずつ見られる風景が違ってきました。それぞれの場所が貴重で特有な湿地なので「湿地群」という形で、全体を守っていくことは重要なことだと感じました。



上高湿地のシデコブシ

## ユースラムサールジャパン 2018年度 活動予定

月	日(期間)	場 所	内 容	備 考
6月	2日(土)～ 3日(日)	代々木公園(東京)	エコライフ・フェア 2018 湿地の恵み展～都市と湿地～ 出展協力	
	未定	芳ヶ平湿地群(群馬)	ユースリサーチプロジェクト in 芳ヶ平湿地群	
8月	4日(土)～ 5日(日)	春国岱(北海道)	ユースリサーチプロジェクト in 春国岱	北海道ラムサールネットワーク総会に合わせて実施
	20日(月)～ 22日(水) (予定)	漫湖・慶良間諸島 (沖縄県)	ユースラムサール CEPA ワークショップ in 漫湖・慶良間諸島	
9月	未定(中旬)	名古屋市(愛知県)	環境デーなごや ブース出展 ユース・ミーティング(総会)	
10月	15日(月)～ 19日(金)	茨城県つくば市ほか	第17回 世界湖沼会議 ユースリサーチプロジェクト in 潤沼	14日(日)に学生会議
	21日(日)～ 29日(月)	ドバイ(UAE)	ラムサール条約締約国会議 COP13	
12月	6日(木)～ 8日(土)	東京ビッグサイト (東京)	エコプロ 2018 ブース出展	
	未定(中旬)	三方五湖(福井県)	ユースリサーチプロジェクト in 三方五湖	
2月	未定	南三陸町(宮城県)	ユースラムサール CEPA ワークショップ in 志津川	
3月	未定(下旬)	名古屋市(愛知県)	ユース・ミーティング(3年間の総括)	